

ディスコグラフィアー掲載

ディスコグラフィアー 【2020No.165】 (HP 掲載)

分類：LP

作曲家：Heddy West 他

曲：500 マイル他

演奏：井筒香奈江 (Vocal) 他

発売：JellyfishLB

No.： LBLP-052

概要：

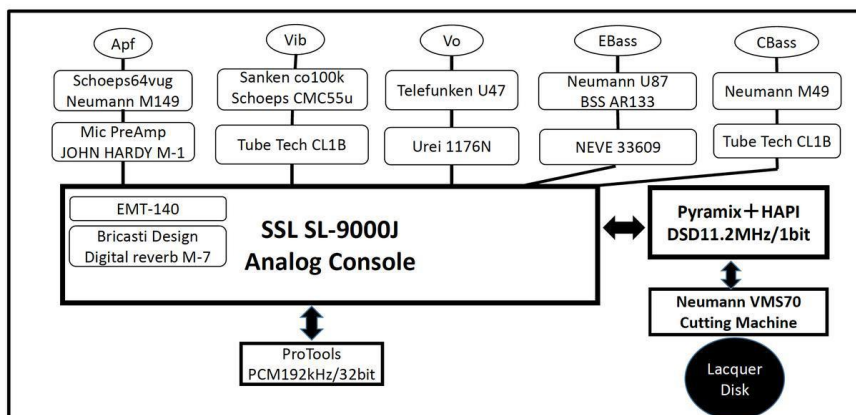


ディスコグラフィアー 【2020No.164】 で報告しました「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio / ダイレクトカッティング・アット・関口台スタジオ」は、ダイレクトカッティングのものでしたが、今回のものは、DSD11.2MHzで録音されていた音源をマスターとし、新たにカッティングしたレコード「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio (DSD11.2MHz/1bit MASTER Cut)」です。

DSD11.2MHzの録音については、オリオスペック主催のプロモーションイベントのYouTubeでのアーカイブ配信で説明があり、編集などはPyramix+Hapiによるとのことです。

<https://www.youtube.com/watch?v=BsDKtmKybtQ>

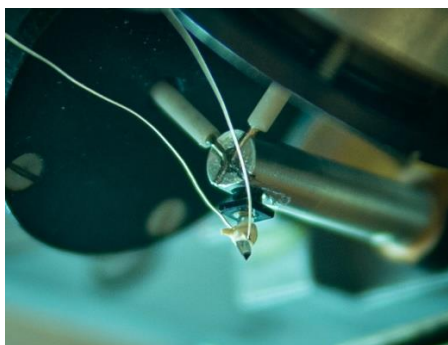
DSD11.2MHz/1bit Master ~ レコード制作システム図



今回のカッティングでは、下記サイトによれば、アダマンド並木精密宝石が開発した、針先に「サファイア」を使用したカッティング針が用いられていることが特徴で、前回のオグラ宝石製の「ルビー」を使用したカッティング針とは異なっています。即ち、今回のカッティングに際しては、先のルビーとは、針先の形が異なる、鋭角の“サファイア A”と丸い“サファイア B”の3つの針で実際にラッカー盤に音を刻み、比較試聴テストが行われ、最終的に、“サファイア B” (ROUND Tip Sapphire) が採用されたとのことです。「ルビー」と「サファイア」は、成分が、ほぼ同じアルミナ (Al₂O₃) であり、物理特性が同等 (ともにモース硬度 9、靱性 8) であるのに、音が変わってくるとすれば興味あることです。

<https://www.phileweb.com/news/audio/202006/30/21783.html>

<https://online.stereosound.co.jp/ct/17373627>



そして EQ やコンプレッションをかけず、マスター音源をそのままカッティングし、プレスは前回同様、東洋化成で、ラッカー盤から直接スタンパーを作る「ダイレクトマスタースタンパープレス」を採用しているとのことです。

【PERSONNEL】

Vocal 井筒 香奈江 Kanae Izutsu

Piano 藤澤 由二 Yuji Fujisawa

Vibraphone 大久保 貴之 Takayuki Okubo (A-1, B-2)
Electric Bass 小川 浩史 Hiroshi Ogawa (B-1)
Contrabass 磯部 英貴 Hideki Isobe (B-2)
Recording Engineer & Sound produced 高田 英男(MIXER'S LAB)
Cutting Engineer 上田 佳子((株)キング関口台スタジオ)
Assistant Engineer 高橋 友一((株)キング関口台スタジオ)
Technical Engineer 高橋 邦明 ((株)キング関口台スタジオ)
Recording Studio キング関口台スタジオ 第1スタジオ(2019.9.17&10.10)
Photography 渡邊 久美(K.O.G.PHOTO)
Design 凌 俊太郎
Produced 井筒 香奈江(JellyfishLB)

【A面】

1. Love Theme from Spartacus(スパルタカス 愛のテーマ)
2. Superstar

【B面】

1. カナリア
2. 500 マイル

今回も再生条件は、45回転で、次の構成で再生しました。

My Sonic Signature Gold(LINN LP-12/GLANZ MH-9Bt)→My Sonic Stage 3010 →
Brooklyn DAC+(MM)入力→P&G フェーダー→300B シングル→FAL C90-EXW

今回の試聴は、先のダイレクトカットティング盤との比較で行います。

まず、言えることは、先のダイレクトカットティング盤の印象はそのまま当てはまることで、ぼんやり聴いていると区別がつかないくらいですが、あえて違いを言えば、次のようになるかと思えます。

ダイレクトカットティング盤の方は、色彩で例えるなら中間色が豊かで、ボーカルのニュアンスやピアノやヴィブラフォンの響きも豊かです。

一方、DSD マスターの方は、全体的にメリハリがあって、ピアノの打鍵の鋭さがでています。静寂感はこちらの方に分があり、音質的にスッキリしていますので、こちらを好む向きもあるかと思えます。

なお、盤の溝が切られている幅は、ダイレクトカットティング盤は6cm程度で詰め詰めであるのに対し、DSD マスターからのカットティング盤は8.5cm程度で余裕があります。このことは、上記サイトには、後者では、すでにあるDSD マスターの音源を元としたカットティングのため、ダイナミックな溝幅に最適化できるとの記載があり、このことが、後者の方が、静寂感があってスッキリした音になっている要因かもしれません。

総合的に言えば、ダイレクトカットティング盤は非常に緊張感をもって製作しなければならず、ハードルが高いのですが、DSD マスターからのカットティング盤は、量産を可能としながらも、高いクオリティを確保できる行き方ではないかと考えられます。

以上